

都市再生

1

副都心再生に向けたまちづくりの推進

- 成熟社会の移行に向け、池袋副都心ガイドプランに基づくまちづくりを積極的に進めるとともに、新庁舎・現庁舎地整備、東西デッキ、造幣局東京支局周辺、各拠点を回遊するLRTなどリーディングプロジェクトを公民連携でチャレンジする。
- 新庁舎整備を契機に、グリーン大通りから雑司ヶ谷方面を都市の顔として、緑豊かで環境に配慮した重点的な整備を行い、「池袋の未来への再生」、「雑司ヶ谷の歴史性の保全」を進める。
- 都市再生緊急整備地域の指定を受け、民間事業者の支援・誘導を行う。

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ 池袋副都心整備ガイドプラン推進事業 172
- ◆ 東池袋四丁目地区市街地再開発事業（第2地区）・補助175号線管理者負担金 173
- ◆ 南池袋二丁目A地区市街地再開発事業 174
- ◆ 池袋西口駅前街区街づくり推進事業 177

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値	現在	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
池袋駅乗降客数（1日平均）	262万人 (17年度)	263万人 (20年度)	↗	↗

池袋副都心（都市再生）将来イメージ

文化と活力、みどりにあふれ新たなチャレンジの舞台となる「まち」池袋

～「文化によるにぎわいの創出」「人と環境への優しさ」

をコンセプトとする都市づくり～



※施設のレイアウトの位置や形状は、現段階における将来構想をイメージ化したものであり確定したものではありません

- 新庁舎は南池袋二丁目 A 地区市街地再開発事業のなかで整備する。再開発エリア内に所有する旧日出小跡地などの区有財産は有効活用して、新たな再開発建物の中に新庁舎の床を確保する。
- 現庁舎地を民間活用（定期借地 50 年）し、その貸付料収入（25 年分一括受取り）を新庁舎の不足する床の取得費用に充当する。また、民間活用のなかで新たな公会堂を整備し、文化と賑わいの新たな拠点づくりに取り組む。
- 窓口の総合化や相談機能の充実を図るとともに、区全体の災害対策の中核となる災害対策センター機能を強化し、区民サービスや防災拠点機能が飛躍的に向上した新庁舎を目指す。
- 建物の長寿命化を図り、緑化の推進や自然エネルギーの利用など、さまざまな環境負荷の低減策を施し、環境対策の先導となる庁舎とする。

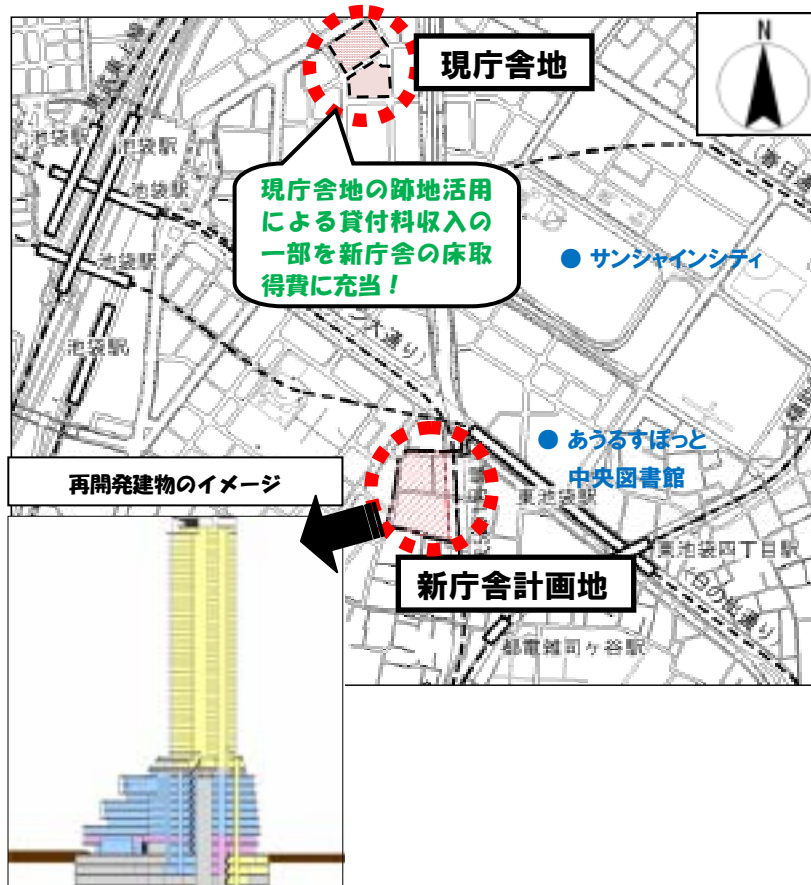
【主な事業】（末尾番号は第 6 章の事業番号に対応）

◆ 新庁舎整備計画の推進 179

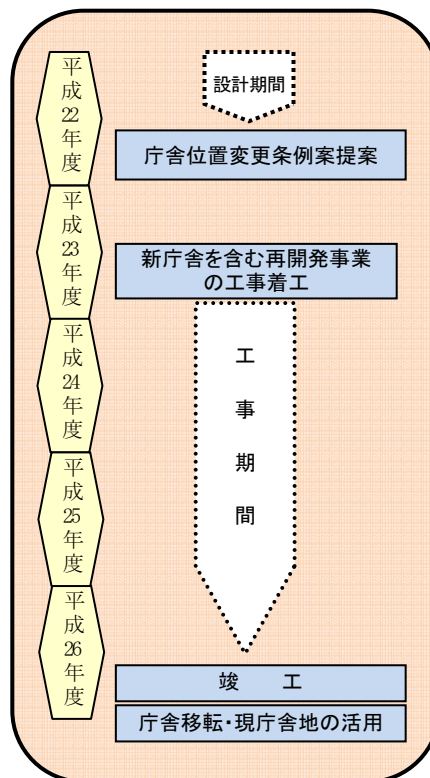
【チャレンジ指標】

指標名称	基準値 (19 年度)	現在 (21 年度)	4 年後 (25 年度)	目標 (27 年度)
新庁舎の整備	—	基本計画	工事期間	新庁舎で 業務開始
現庁舎地の活用	—	—	—	活用開始

○ 現庁舎地と新庁舎の位置



○ 新庁舎整備スケジュール



都市再生

3

池袋駅東西デッキから広がる歩行者回遊性の拡大

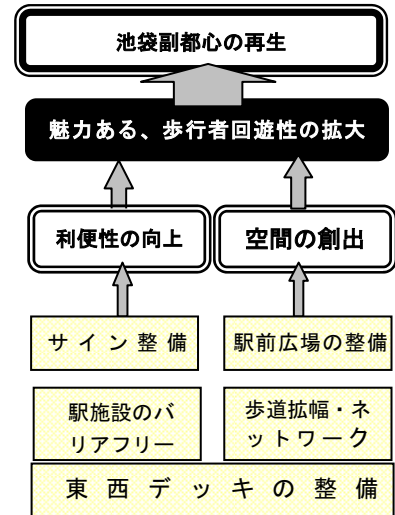
- 駅から街への連続性ある歩行者ネットワークの核として、池袋駅での東西自由通路の整備・地下通路のサイン整備・地下通路から地上部へのスムーズでバリアフリーなアプローチ整備を行うことにより、池袋副都心全域へと広がる歩行者の回遊行動を促進する。
- 駐車場配置や公共交通システムのあり方などを含めた総合的な都市交通戦略の検討をもとに、主要な街路の歩道拡幅や道路ネットワークの整備を進める。
- 東西駅前広場を再整備し、鉄道・バス・タクシーの乗換え利便性の向上、休憩・たまり空間の確保、副都心の玄関にふさわしい景観を形成する。

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ 池袋駅及び駅周辺整備事業 176
- ◆ 池袋駅西口駅前広場の改修 178
- ◆ 池袋駅北口歩道拡幅(平成23年度より)
- ◆ 区道のバリアフリー化の促進 194

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値	現在	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
池袋駅乗降客数 (1日平均)	262万人 (17年度)	263万人 (20年度)	→	→



都市再生

4

新たな公共交通システムの充実

- 過度に自動車利用に依存した都市生活からの脱却に挑戦し、環境負荷が少なく池袋の顔となる観光施策として、ユニバーサルデザインの理念に基づき、池袋副都心に点在する集客施設や鉄道駅の回遊を歩行支援する次世代型路面電車（LRT）を整備する。
- 池袋LRT整備構想をもとに、池袋駅前広場の拡充、フリンジ駐車場（*注釈）の設置と歩行者優先ゾーンの創出、歩行支援となる次世代型路面電車（LRT）など、歩行者が安全・快適に回遊できる都市基盤を整えるために、都市交通戦略を検討し、実現に向けた関係各機関との協議・調整を進める。
- 高齢社会への対応と地域の活性化をコンセプトに、区民の地域内移動ニーズと池袋副都心の東西への回遊性に対応した公共交通サービスを充実するため、コミュニティバスの運行開始に向けた事業化準備を行う。

* 都心部への車の乗り入れを抑制することを目的として、都心の縁辺部（フリンジ）に計画的に配置された路外駐車場のこと

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ コミュニティバスの導入 205
- ◆ 新たな公共交通システムによる交通戦略調査 206

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値 (19年度)	現在 (21年度)	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
コミュニティバスの整備	—	—	1路線	2路線
LRTの整備	—	—	—	1路線

LRT（次世代型路面電車）



【架線レスシステムのイメージ：「SWIMO」川崎重工】

- 池袋東地区は、補助 81 号線、補助 175 号線、補助 176 号線、環状 5 の 1 号線(地上部・地下部)の整備を進め、駅周辺の通過交通の抑制を図る交通ネットワークの完成を目指す。
- 池袋西地区は、環状 6 号線、補助 172 号線、補助 173 号線の整備を進め、劇場通りを中心とした新たな幹線道路へのネットワークの完成を目指す。

【主な事業】(末尾番号は第 6 章の事業番号に対応)

- ◆ 都市計画道路の整備【都施行】環状 5 の 1・6 号線、補助 81・172 号線
- ◆ 都市計画道路の整備【区施行】補助 173・175・176 号線 191

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値	現在 (21 年度)	4 年後 (25 年度)	目標 (27 年度)
都市計画道路整備率	58.0% (18 年度)	58.2%	↗	↗
区施行路線	1 路線 (19 年度)	3 路線 (完了 0 路線)	1 路線 (完了 2 路線)	0 路線 (完了 3 路線)



【補助 173 号線の整備イメージ】

- 「自転車等の利用と駐輪に関する総合計画」に基づき、池袋駅を中心に、鉄道事業者等の協力を得ながら新たな駐輪場の整備を行う。
- 駐輪場への利用誘導策を図るとともに、さらに効果的な放置自転車の撤去活動を行い、快適な自転車利用環境を備えたまちづくりを推進する。

【主な事業】(末尾番号は第 6 章の事業番号に対応)

- ◆ 放置自転車等対策の推進事業 201
- ◆ 自転車駐輪場等の整備 202
- ◆ 自転車保管所の再構築(自転車保管所の整備) 203

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値	現在	4 年後 (25 年度)	目標 (27 年度)
放置自転車台数 * 都発表値	5,157 台 (18 年度)	4,099 台 (20 年度)	1,200 台	1,000 台
駐輪場収容台数 * 民間含む	14,230 台 (19 年度)	15,038 台 (21 年度)	16,700 台	18,800 台
駐輪場利用率	81.4% (18 年度)	85.4% (20 年度)	80%以上を 維持	80%以上を 維持



【巣鴨駅北自転車駐輪場】

都市再生

7

魅力ある駅周辺の整備

- 各鉄道事業者と共同で駅のバリアフリー化にあわせた自由通路や駅前広場の整備を進める。
大塚駅周辺：駅前広場・駐輪場整備
椎名町駅周辺：駅・まち一体改善事業による駅舎改善・自由通路整備、椎名橋桁下の広場・駐輪場整備

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ 大塚駅周辺整備事業[駅前広場の計画・設計・整備] 181
- ◆ 椎名町駅周辺整備事業 182
- ◆ 【再掲】椎名町駅自転車駐車場整備事業 202
- ◆ 【再掲】大塚駅自転車駐車場整備事業 202

【チャレンジ指標】

指標名称	基準値	現在	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
大塚駅乗降者数 (1日平均)	10.5万人 (17年度)	10.7万人 (20年度)	→	→
椎名町駅乗降者数 (1日平均)	1.9万人 (17年度)	1.8万人 (20年度)	→	→

【椎名町駅完成予想図（北口）】



都市再生

8

安心して住み継がれる住宅市街地づくり

- 市街地再開発事業等による良質な都市型住宅の供給誘導と、「中高層集合住宅建築物の建築に関する条例」、「アメニティ形成条例」、「地区計画制度」等により、快適な住環境と街並みづくりを進める。
- 高齢者・ファミリー世帯が自立して暮らし続けることができるよう、高齢者向け優良賃貸住宅や家賃助成などで住宅費負担の軽減を図る。
- 「豊島区耐震改修促進計画」に基づき、住宅の耐震診断や耐震改修を促進する。
- 居住環境総合整備事業を推進し、地域特性を活かし安全で魅力ある住宅地としての再生を進める。
- 「マンション担当課」を新設し、分譲マンションの良好な維持・管理・耐震化を推進する。

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ 東池袋地区補助 81 号線街路整備と沿道まちづくり 220
- ◆ 民間住宅耐震改修助成及び耐震シェルター助成事業 214
- ◆ 分譲マンション耐震化助成事業 215
- ◆ 高齢者向け優良賃貸住宅の整備 186
- ◆ 子育てファミリー世帯への家賃助成事業 184

【チャレンジ指標】 調査等の関係で、基準値以降の数値がない場合、現在欄は「同左」としています。

指標名称	基準値	現在 (21年度)	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
不燃領域率 (居住環境総合整備事業地区)	49.8% (19年度)	同左	→	→
住宅の耐震化率	75.5% (18年度)	78%	86%	90%
住宅ストックバランス (床面積 50㎡以上の住宅の割合)	30%以上 (19年度)	30%以上	45%以上	50%以上

住宅密集市街地

- 老朽木造建築物が密集
- 道路が狭く広場も不足

災害時、被害拡大の危険性

- 建物の共同化や耐火建築物への建替えを促進
- 地区計画制度を活用し、地域特性を活かした街並みを創出



【整備例】

- 商店の事業継承を支援し、商店街活動の継続、活性化を図るため、若手後継者を育成するシステムを提案し構築していく。
- 地域の安全・安心・コミュニティの拠点として空き店舗を活用する。活用するにあたっては、その担い手も含めて多様な手法を検討し、実施する。また、商店街の統合、ブロック化など、区内商店街の連携の強化を図る。
- 道路や店舗のバリアフリー化を推進するとともに、宅配サービスや福祉サービスを商店街活動に含めるなど、ソフトのバリアフリー化を図る。
- 文化資源を活かした特色ある商店街の形成を図る。

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ 商店街イベント事業支援 240
- ◆ 商店街施設整備事業支援 238
- ◆ 商店街販売促進事業支援 239
- ◆ 空き店舗対策事業 237



【チャレンジ指標】

【としま商人まつり】

指標名称	基準値	現在	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
商店街加入会員数	5,565名 (18年度)	5,332名 (20年度)	5,400名	5,750名
空き店舗率の減少	3.39% (18年度)	2.95% (20年度)	2.70%	2.10%

- 産業見本市を開催し、販路拡大や企業間交流等を通じて区内企業を支援するとともに、次世代を担う若年層にもものづくりの魅力や創造する楽しさを伝え、地域への愛着心を育てる。
- 関係機関や民間事業者等と連携し、経営・融資・起業創業等の相談、支援をワンストップで提供できるビジネスサポートセンターの整備を進める。

【主な事業】（末尾番号は第6章の事業番号に対応）

- ◆ としま ものづくりメッセ 233
 - ◇としま ものづくりメッセの開催 ◇としま企業支援サイトの運営 ◇親子工場見学会の実施
- ◆ としまビジネスサポートセンター（中小企業相談室運営事業） 236
- ◆ 中小企業支援事業 235
 - ◇専門家派遣 ◇見本市等出展支援 ◇ホームページ作成支援

【チャレンジ指標】

【としま ものづくりメッセ】

指標名称	基準値 (19年度)	現在	4年後 (25年度)	目標 (27年度)
メッセ参加事業所数(小間数)	73事業所 (95小間)	87事業所 (110小間) <small>21年12月末現在</small>	95事業所 (100小間)	100事業所 (100小間)
としま企業支援サイト登録企業	—	79事業所 (21年度)	250事業所	300事業所
中小企業相談室相談件数	752件	1,193件 (20年度)	1,500件	2,000件
専門家派遣件数	—	4件 (20年度)	50件	100件

